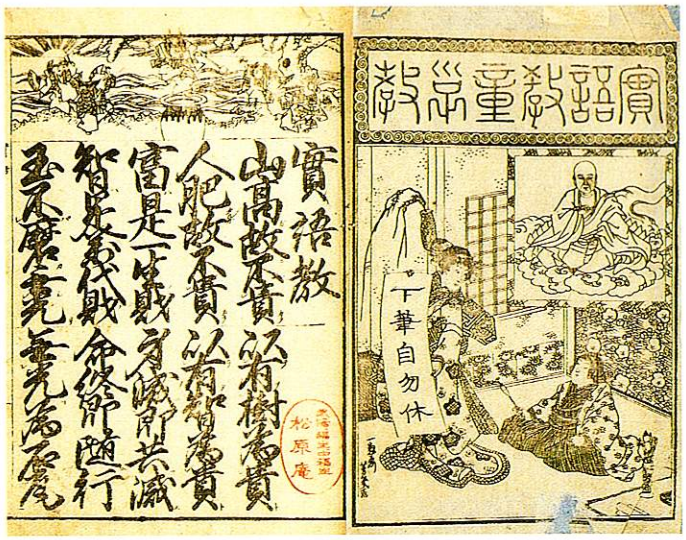
実語教童子教

『実語教』は平安時代末期の成立で、『童子教』は鎌倉時代前期の成立と推定されているが、近世になると概ね『実語教』は弘法大師作、『童子教』は安然和尚作とするものが多い。近世ではこの二教はほとんどの場合、合本されている。『実語教』は主に「智」を礼賛し、学問のあらましを初学者に諭す勧学教訓で、『童子教』はこの世の因果の道理や儒仏の教えを諭した幼童訓・処世訓である。両教とも暗誦に便利だったため寺子屋でも盛んに使われたことから、板式の多様性と板種の多さは往来物の中で随一である。

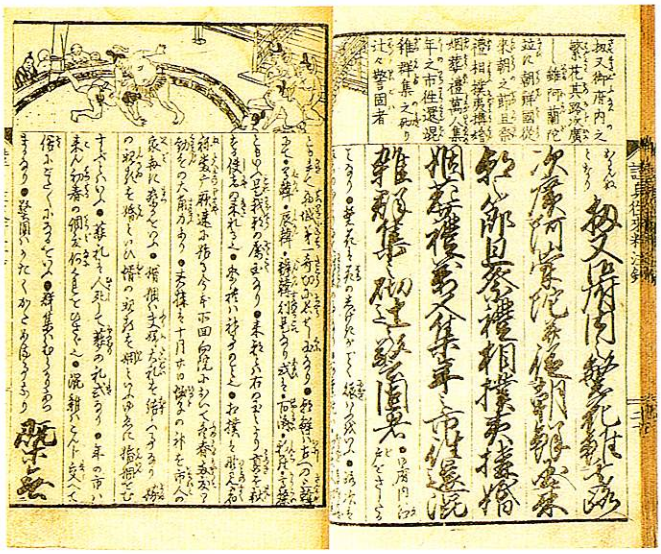
15
実語教童子教証註
じつごきょうどうじきょうしょうちゅう
一冊　大本
文化13（1816）序
勝村治右衛門・河内屋喜兵衛　他８肆

16－1
実語教童子教
じつごきょうどうじきょう
一冊　大本
安政５（1858）再版
河内屋太助梓

16－2



17
実語教童子教
じつごきょうどうじきょう
一冊　大本
慶応3（1867）再刻
錦森堂 森屋治兵衛板



18
〈頭書絵入〉謹身往来精注鈔
きんしんおうらいせいちゅうしょう
一冊　中本
文久2（1862）
藤村秀賀（鶴亭）注・序　歌川芳春（一梅斎）画　小森金城（桜亭）書
大坂屋藤助（山田文栄堂）発行　須原屋茂兵衛　他10肆

19
寺子教訓書
てらこきょうくんしょ
一冊　半紙本
安永？（1854～1859）　河平板